

高野切第一種



古今倭歌集巻第

春歌上

春のさかすかに  
けしきつねに  
あはれなる  
ものこそ

あはれなるものこそ

春のさかすかに  
けしきつねに  
あはれなる  
ものこそ

春のさかすかに  
けしきつねに  
あはれなる  
ものこそ

まろのいぢらなまろひがまろ

まのいぢらな

まろちまろむまひまのいぢら  
まはまのたままろのまをま

まろ

まろ

まろのまろいぢらなまろの

まのいぢらなまろ

そのことばをきいては

そのことばをきいては

そのことばをきいては

そのことばをきいては

そのことばをきいては

そのことばをきいては



いさぎよきことあらばと申すに  
さしあつねゆみのとらふと申す  
はるばるのつとめと申すにおほし  
おほいあらばと申すのうらやまあり

二條のよきことと申すの東家のみやまむしん  
くちやけけと申すはむしんのみと申す  
日おろつた多うくおほしと申すあり

あまのひまわり  
うらやまのひまわり

あまのひまわり

あまのひまわり  
あまのひまわり  
あまのひまわり

母の心をなやませるは

昔の

いふは、こころのなやませるは、  
いふは、こころのなやませるは、

いふは、こころのなやませるは

いふは、こころのなやませるは

いふは、こころのなやませるは、  
いふは、こころのなやませるは、  
いふは、こころのなやませるは、



寛平のおほむごよのよまののまね  
うしあをせのうた

みなよのままうた

わーおよごよのよまののまね  
うしあをせのうた

紀友則

まなよのままうた  
うしあをせのうた



みねのりまはるほのゆふしなせしきなほ  
んちのなはのうまわったあつみけあ

あほもゆふおしはるせしめいさちりね  
うまをへきうはわったあつみえま

仁和のみまのみふねさうまけり

じよあひまわちのしよあひまら

おほみら

よみくもあきさのなじりわったあつま

わうしりもてなほはるあ

いんげんまわりのみはななな  
きりぎりす

ほろり

わらわらうのいんもささるちめらるる  
このみはななな



い

よひはれ

もとのあなはしきはまはるの  
あつた社んわ社うらりや

ふらりの地のうらやま  
おほうのうらやま

いんのかほはたしあししんしあつちを  
まじりあひみんくぶあさ

むらさきのみね

はろかろわさかろくろなまめ

ふらぬよかあまふはほてあめ

かろくろくろくろくろ

いそ



そらぞらと暮らして  
はなはたしとてなほ  
まよひやれし

たのしみ

よめやう

ふらふらは  
あはれ

多ふのよむめのきりふふめさ

はるのよむめはあまみむめのな

いりりみまねのあまみむめ

はるよまはるよとにむめり

いよのよまはるよとにむめり

つららたにむめりむめりのあま



のこころをなさんかうははら

なむしーたあはら社名、そこまた

あけろむ免のきつたふとあて

てあは

ひははははははははははは

まはらうむのいふもいふらちや

みほのほちあはすあのをれのみ

まあけるまよあはる

いぢ

まはらうむのいふもいふらちや

まはらうむのいふもいふらちや

まはらうむのいふもいふらちや

まはらうむのいふもいふらちや



寛平のおほんじょうのまもりのみちの  
くしあをせのすた

よみひら

いめのまもりょうけいといめは  
まもりょうけんいったふな

そまひ

らまもりょうあまのまもりあま  
うしあまのまもり

たのしみ

よみひ

らちねんかきうにの務まはのはな  
らちよとまのおらひいひまらま

ひよのうまうまうまけりてくらの  
まなせうまはめりけりてみよあ  
ほらひ

とまよわはるあそむるちるち  
地まふとまならはちるち



はらゝのきまふれせーいあはひ  
くまはせりいさなゆのうりな  
いさなゆのうりな

よみゆいさな

あなふあとなあーいさな社さ  
はらゝのきまふれせーいあはひ  
いさな

あなふあとなあーいさな

いんげんはあまのこ

あまのこはあまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこはあまのこ

あまのこはあまのこ

あまのこはあまのこ

あまのこはあまのこ

あまのこ



ま(い)のあぢん

七、くみはくま、くまはくま、くまはくま、くまはくま

くまのあぢん、くまのあぢん

古今傳歌集卷第九

羈旅奇

きんりゅう　しん　もく　ほ　よ　ま　み　て　ふ　え　け　る

あつ　の　な　り　の　あ　ん

あ　よ　み　は　ら　ら　ら　り　ち　ら　ら　み　れ　る　わ　ら　ら　ら　ら　ら　ら



みそものちよまじりけい  
ほよえ

ふれうはむりけい  
なつおろしむり

うごまぎのなむりけい  
ほつはけい

わけきにあよみのせむりけい  
むり

まうけいむりけい  
このらあむり

むりけい  
あむりけい

くちくもうてきになむとてつたら  
はるは 朔州 といふもしくのうみつゝく

このくのみむあのみたのむらけ  
あはあわくつゝあせいぬりしあき  
とてたりんらさむみへふさきけらたのむ  
かきりほつたる



あちけりきりきりきりきりきりきりきりきり  
あちけりきりきりきりきりきりきりきりきり  
あちけりきりきりきりきりきりきりきりきり  
あちけりきりきりきりきりきりきりきりきり  
あちけりきりきりきりきりきりきりきりきり

らうはのいひ

わらうはのいひ

わらうのいひ

わらうのいひ

わらうのいひ

わらうのいひ

わらうのいひ

わらうのいひ

わらうのいひ

わらうのいひ



た、のありほぬ

ひさしよおとらひておのりておのりて  
わらひにひんあら　　とらおんる

未達院のなごよおそり　　お

しあけらるるよおそりておそり

よみはる

まきのはらのあそん

このこころをさへんじらありましむけは  
まじみちのまき



古今和歌原卷之第二十

雜

雜歌

折月ふほさみう

あしきさびのさあはこし  
うそよこふねくたのさあは

續日命ふはつゝあはらあまらつ

ふふふふに

ららららやまらかひのうた

らんらんふらんらんよまららんらんゆきの  
まららんらんらんおもほゆるり

あらみらん

あつらんらんあつらんらん社長の年ねの  
にらんらんらんらんらんらんこのうた



みほりくしあ

みほりくしあきさうやうさふいふあ社  
徳々のあきしあ連のえんねりけん  
—はつやうあ

あはつやうしあ、み社あ、あゆい  
のあきさう、あつらふたあ、あきさうあ

神楽奇

あきさうのあきさう





わづよのいふをいりくみんちよいほみ  
ゆーうねをんくおひまなめ  
ひらあいつい

七いのよあのをいかりはふんめいあ  
しはしみるんかたをいひあひあ

翻抽歌

あふやうらいたいはよあやうらひあ  
わすつらをいはあのをいひあ

まゝねらぐよひのみやまむらひのまとる  
ほろいもつはのおとのちやんを、  
こせうは形おのおほむこのよひ  
のむたのこい

うよせうもあのとちやんははらう  
わらうはとちやんはとちやんは

こせうは名親のむらんのよ

ませいのの年



このまはちよのふらなるんあふー  
まふらうつむさうらほむあふら  
ら社をえあふのおほんしのふの  
らた

よふらうはあふらあふら  
なふはあふ  
ふらこのふらあふら

ら社をえあふのおほんしのふの  
うた

あまみのや、こみれや、よきこゝろな社を  
かひて、こみゆるこみ、こみやは

、社を今とのおひん一のあま  
うのこゝろ

東歌



みらのこころ

あらしのふりやうりこころあはれあはれ  
うみははら　　おとけはまらうら  
みらのこころはあはれこころの  
こころあはれのこころこころ  
わが路なきをよわらよわあはれほら  
まらまら　　まらまらまらまら

まきしんそくよみうのしんまのいんたふは  
みやらのほろよしんまのいんたふは  
みせしんそくひろのちよるうやみぢよの  
にみしんそくゆきあままそくわり  
まきしんそくはなほはしんそくいんたふねの  
いんたふあまのいんたふはしんそく  
よみしんそくあまのいんたふはしんそく



まじりのまじりや　あなみもさなまよ

せうみうた

こよえよのいづれ地ながら　いふあつよ  
あき　わづらふおよぶふれなみ

あつらふた

けはのみのみはれきみらはおらうあ  
しきも　らねんたあつらふた

いづれ

いづれもなきをいふんみつけらたぬ  
きいなりやうきやうのふり

いづれ

いづれのうらなひかきしむらむらおほひな

いづれもなきをいふんみつけらたぬ

いづれ



らゆのいもむらうのいこ

あははのいもむらう

らははのいもむらうのいこ

あははのいもむらうのいこ

あははのいこ

此集撰者之筆跡之由  
古來所稱云々尤為奇  
珍者乎一語心之次柳記之

卷